

令和7年度 第3回 学校運営支援協議会

令和8年2月13日(金) 10:20~12:40

一関市立猿沢小学校 校長室

- ◇ 授業参観 (10:25~10:55)
- ◇ 学校運営支援協議会 (11:00~12:00)
- ◇ 給食試食 (12:00~12:40)

次 第 【進行：副校長】

1 開会 【副会長】

2 会長挨拶

3 校長挨拶

4 説明等 【議長：会長】

(1) 令和7年度学校運営支援協議会活動報告・まとめ(授業参観を含む)について

- ① 学校経営反省及び学校評価について
- ② これまでの教育活動や児童の様子について
- ③ PTA 執行部会より
- ④ その他

(2) 令和8年度学校経営方針について

(3) その他

5 閉会 【副会長】

猿沢小学校学校運営支援協議会委員名簿

	氏名	所属・役職等
会長	菅原 一	大東地域教育振興運動推進委員会 会長
副会長	千田 泰	猿沢地区振興会 会長
副会長	新渡戸 隆道	猿沢小学校 PTA 会長
	菊地 昌斉	猿沢地区自治会等連絡協議会 会長
	小野寺 茂	猿沢地区区長会長
	及川 史子	
	菅原 吉寿	猿沢市民センター長
	大竹 博行	校長
	吉田 佳世	副校長

4 説明等

(1) 令和7年度学校運営支援協議会活動報告・まとめ(授業参観を含む)について

① 学校経営反省及び学校評価について 【別紙資料参照】

② これまでの教育活動や児童の様子について 【口頭説明】

③ PTA 執行部会より

④ その他

(2) 令和8年度学校経営方針について 【別紙資料参照】

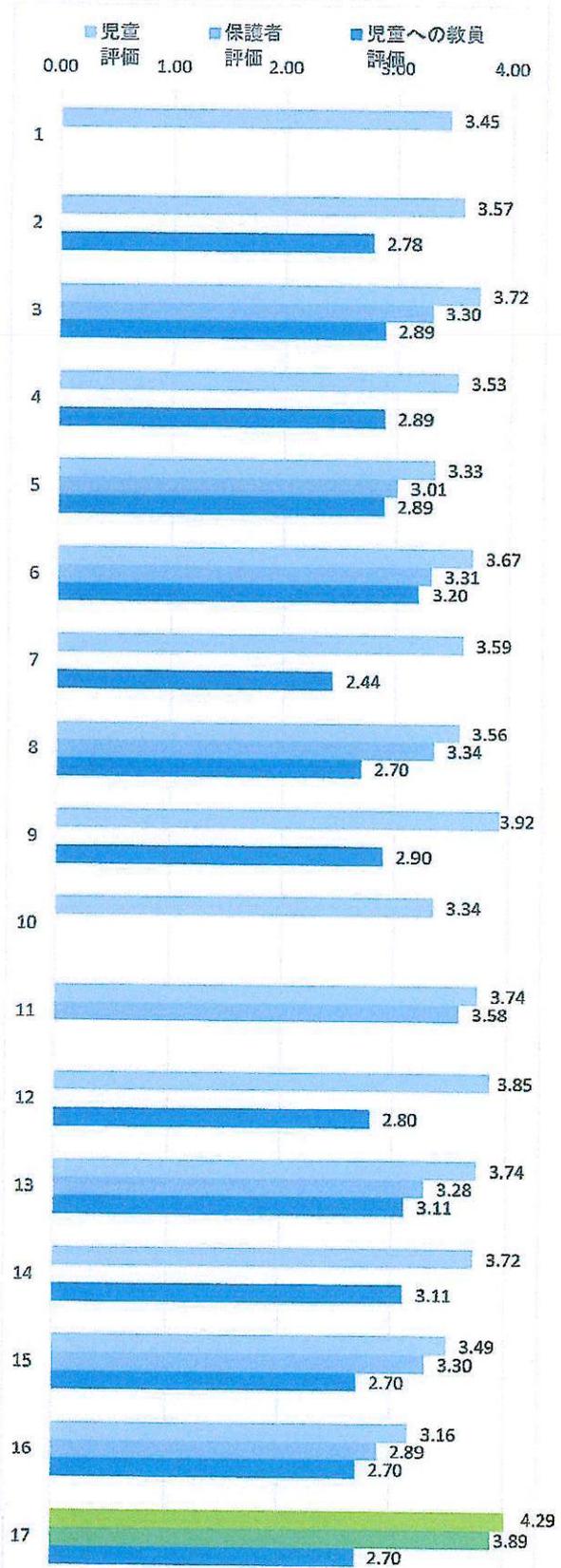
(3) その他

令和7年度 一関市立猿沢小学校 学校評価 2学期

各評価点数は、
 あてはまる=4点、だいたい=3点、あまり=2点、あてはまらない=1点
 として平均値を算出したものです。前回比較をして、上がったものはピンク色、下がったものは水色になっています。
 ○は、まなびフェスト・そだてフェスト「めざすこどもの姿」の
 目標値達成を表します。

児童・保護者・教員別の比較

項目	児童評価	保護者評価	児童への教員評価	指導に対する教員評価	
すすんで学ぶ子	1 勉強がすぎ	3.45			
	2 集中力・粘り強さ	3.57		2.78	
	3 家庭学習は(学年×10分以上)	3.72	3.30	2.89	2.86
	4 家庭での音読	3.53		2.89	
	5 家庭での読書	3.33	3.01	2.89	習熟に向けての練習の確保 2.71
	6 授業がよくわかりますか。	3.67	3.31	(単元テスト) 3.20	2.71
	7 話す・聞く	3.59		2.44	2.63
思いやりのある子	8 さわやかな挨拶	3.56	3.34	2.70	3.22
	9 共感的人間関係	3.92		2.90	3.11
	10 自己肯定感	3.34			
	11 学校が楽しい	3.74	3.58		
	12 なかよく助け合い	3.85		2.80	主体性のある居心地の良い学級作り 3.13
心も体も健康な子	13 進んで運動	3.74	3.28	3.11	3.13
	14 外遊び	3.72		3.11	
	15 「早寝・早起き・朝ごはん」	3.49	3.30	2.70	2.90
	16 居間8ルール	3.16	2.89	2.70	
	17 おうちルール	4.29	3.89	2.70	情報モラル 2.56



※17おうちルール児童・保護者は、6点満点(肯定的評価は3~6点)

R7 2学期 まなびフェスト評価から

1 傾向の確認(まなびフェストの目標値は3.5以上)

① すすんで学ぶ子

児童全体では、引き続き全体的に肯定的な評価となっている。自己評価が全体的に1学期よりも数値が下がっているが、目標達成値である。児童は「集中力・粘り強さ、授業がわかる」について100パーセントの肯定的評価だった。そして、「相手の話をよく聞き、自分の考えを進んで話していますか。」では、児童と教員双方の自己評価が上がった。話し合いや振り返りの機会を意図的に設けるだけでなく、どのように話したらよいか望ましい姿についても指導している。

また、1学期も課題になった読書についての取り組みは、ほとんどの学年に「あまり読んでいない」または「読んでいない」と答えた児童や保護者があった。読書祭り(多読賞)や各学期の目標達成冊数、必読書などについて、校内で共通理解をしながら取り組んでいるところである。

② 思いやりのある子

児童は、肯定的な評価が多く、まなびフェスト・そだてフェストの目標値をほぼ達成している。「共感的人間関係」及び「なかよく助け合い」は、児童全員が肯定的評価だった。教員の児童に対する評価も上がり、居心地の良い学級作りへの充実をめざしている。自己肯定感の低い児童へは継続して配慮をしている。

③ 心も体も健康な子

今年度も重点として「情報メディアとの付き合い方・情報モラル」に取り組んできた。保護者と教員の評価が上がり、児童との差が縮まっている。情報についての学習やタブレットの使用等を通して、上手なメディアとの付き合い方についてのご指導を繰り返し行っている。家庭との連携を図りながら今後も啓蒙していく。

2 保護者のコメント

【1・2・3年生】

- ・学校は楽しいみたいですが、たまに、友達とうまく行かない時があるようです。
- ・漢字が読めるようになって色々声に出して読むようになった
- ・漢字など色々なことを覚えてきて、楽しそうに自主学習をする姿が見られる。
- ・食べるのが遅い、量を食べれない為に給食の時間が苦痛になってる様子。給食後の体調不良や一時的な発熱で何度か早退が続いている。
- ・ひらがなカタカナ漢字と2学期になりますます読み書きが出来るようになっていて日々驚かされるとともに嬉しく思います。
- ・進んで沢山読書をしています。
- ・登校前にお腹が痛くなったり涙が出ますが、頑張ってお登校できる日も増えて来ていると思います

- いろいろなことを積極的にやりたがる
- 自学は宿題だけだと 30 分もしないうちに終わるので、自分でドリルを用意して勉強をやっていて凄いなと思いました。
- 周りの様子を見て、自分なりに考えて行動している。他者との比較ではなく、『自分は自分、人は人』という視点で考えている。

【4・5・6年生】

- 反抗期なのか口が悪いです。
- 楽しく学校に行っているみたいで安心しております。
- 頑張る、やりたいという取り組む姿勢が出てきたように感じます。
- 以前より少し物事に自信を持って取り組めるようになってきた気がします。学校生活の中でだんだん見えるものが増えできたのかと思います。
- 最近は楽しく学校生活を送っているようであんしんしてます。
- 何事も挑戦していく姿が見られ、スポ少活動に参加できるように宿題も考えて自分から取り組んでいると思います。
- 早寝、早起きがなかなか難しいようです。家でも声を掛けながら、3学期に向けて頑張ってもらいたいと思います。
- 分からない事を直ぐに聞く習慣がついたり、自分から進んで取り組む事が増えているように感じます。
- 特にありません
- 早寝、早起きがなかなか出来ていません。3学期に向けて、家でも声をかけたいと思います。
- 必要最低限の事しかやらずもう少し積極的になるといい。
- 学年が上がるにつれ就寝時間が遅くなりました。早寝を促していますがなかなか難しいようです。
- 嫌なことを伝えられず悩むことが多い
- 進んで手伝いをしてくれています。
- お手伝いをよくしてくれる。自分でメディアの付き合い方を考えて、家庭学習をもう少し頑張れるようにしたい。
- 勉強がよくやっていると思いますが、片付けができなかったり、忘れ物が多いです。親が気付いたときに声をかけるようにし、その都度子供と対応を考えています。
- よく食べよく運動していますが、寝る時間が遅くなりがちなのが心配です。
- 今後は、しっかりルールを守って欲しいと思います。
- 対話を通して考えを深めるための「話す・聞く」の指導の手立て
- 居心地のよい学級作り（不安や悩みを抱える児童への対応含む）について
- 家庭学習（読書を含む）や生活習慣について、家庭との連携の取り方

学校経営の基盤

案

1 地域の概要

(1) 学区の位置

猿沢小学校学区は、一関市大東町の北西に位置し、北は海拔 787.7m の蓬萊山を境に奥州市江刺区と、南から西にかけて一関市東山町に境を接している。

北端・・・北緯 39 度 05 分 22 秒 南端・・・北緯 39 度 00 分 10 秒
東端・・・東経 141 度 18 分 01 秒 西端・・・東経 141 度 16 分 43 秒

・ 学校の位置

北緯 39 度 01 分 02 秒 東経 141 度 18 分 00 秒 標高 132m

(2) 学区の面積 39.56km²

(3) 人口 1,409 人、世帯数 569 (令和 7 年 11 月現在) 昭和 45 年以降は減少傾向である。

(4) 交通事情

学区内を国道 343 号線、国道 456 号線が通り、水沢、江刺、北上へ向けて交通の要衝となっている。交通量の増加に伴い、児童の交通安全指導の充実を図っているところである。交通機関としては、市の路線バスがあるが、便数は少ない。

(5) 産業経済状況

戸数の 60～70% は農家世帯であるが、一関市内の企業への就労が多い。過去には、特産物としてりんごやしいたけの栽培、野菜作り等に取り組む農家も見られたが、現在は、米作りが主になっている。

(6) 家庭及び地域の現状

多世代家庭が多く、祖父母による養育の協力を得ている家庭が多い。父母及び祖父母の学校に対する協力がよく、教育的関心も高い方ではある。共働き家庭が多い。

地域の伝統芸能の「伊勢神楽」に、保存会の指導で取り組んでいる。

2 猿沢の歴史 (資料)

(1) 村の歴史

地区内各所から石器・土器などの遺物や住居跡などから、数千年も昔よりこの地に先住民が居住していたことが明らかである。(新渡戸・関根遺跡、金取遺跡、中野台遺跡、小向遺跡、大畑南沢遺跡、大畑柳沢遺跡、沢田遺跡)

下って 800 年前 (文治年間) 源頼朝が平泉を滅ぼしたときに、藤原征伐の先人を引き受けた葛西清重は、功を認められ松良 (上下胆沢、西根) 竹駒 (気仙、本吉、桃生) 磐井 (東・西) 高倉 (流、三ノ廻り、袋中) 門岡 (江刺、小鹿) の 5 郡のほか、遠島、六兵を領することになった。頼朝に鎌倉に帰る際、奥羽総奉行を命ぜられた。

この清重の家臣の及川一族が奥七騎と称して当地区 (中川、遅沢、鳥海、西館、築館、天狗田、猿沢) を支配下においた。猿沢は、柴山館 (字倉林 諏訪館含む) の及川一族の及川掃部の治下となった。

永禄 2 年 (約 500 年前) 5 月 5 日の節句に興田村柏木城主及川美濃介頼家が葛西の居城 (石巻日和山) において、葛西三郎の弟千葉三十郎信近と席順争いで信近を斬る。このことから頼家は領地を没収されることとなり、大原山吹城主千葉飛驒 (葛西清重より三代目の孫) が領地受取役として遣わされた。頼家はこれを拒み、精兵を揃えて防戦した。猿沢城主も及川掃部も頼家に組みし、参戦する。戦いは持久戦になったが、及川氏に利あらず興田の及川氏は亡び、猿沢の及川掃部は気仙郡小友村蛇ヶ崎に逃れたという。

これに代わり、桃生郡中津山村より中津山氏が遣わされ猿沢を治めることになる。天正 18 年 (約 360 年前) 葛西氏は豊臣氏と一戦に及び、敗れて各所の要害・城館ごとく没収され伊達氏の治下となる。柴山館も落城し城主中津山三郎右衛門は桃生の中津山に逃れる。

葛西氏の滅亡により気仙小友の蛇ヶ崎に逃れていた及川氏は猿沢にもどり前城主の故をもって伊達氏に嘆願し、柴山館に入り伊達氏に仕える。伊達政宗より猿沢村金山肝入を命ぜられ、金 21 貫及び刻印

を賜った。

これより猿沢村の金山大いに隆盛を極め、峠部落は金山町として立町、横町、大町等集落が形成され賑ったという。この金山隆盛を聞き及んだ中津山氏は、再び当地に戻り及川氏に身を寄せ土着して肝入りとなる。及川氏は留守居役を置き仙台に移り伊達家に仕えたという。

寛永年間に至り、気仙沼やその近辺の三陸沿岸(海産物)と胆沢・江刺(農産物—米・野菜等)を結ぶ市場町・宿場町として栄えた。月のうち、2・7の日の6日間市日が立ち、物資の交換、売買が行われた。猿沢の名産として煙草・赤石・硯・生糸・紅花・楮が推奨栽培されていた。

猿沢の人々の中には物資を馬で運搬する駄賃取りに従事する人があらわれた。(人数1556人、馬307頭 安永風土記)市日は、「町の日」と称し村内外から大勢の人たちが集まり賑やかなものであったという。この様は昭和十年代まで続いた。

戦中の物資不足と戦後の社会経済情勢の変遷によりいつしか「町の日」も廃れ、金山も廃坑となるなど今はその影さえない。町並みに残る土蔵の建物と峠の字名等にその名残をとどめるのみである。

明治になって胆沢県、一関県、水沢県、磐井県等の管轄を経て、明治9年岩手県に属し、明治22年町村制施行により東磐井郡猿沢村となる。

昭和30年4月1日、町村合併法により郡北5か町村(大原町・摺沢町・猿沢村・興田村・渋民村)が合併して「大東町」の誕生を見た。

平成17年9月、一関市・花泉町・東山町・川崎村・千厩町・大東町・室根村が合併し、新生一関市が誕生し今日にいたる。

(2) 村名の由来

平泉藤原氏が奥州を握り全盛を極めた頃、平泉京都に模し、北上川の東方を東山と称した。本村に猿沢の池に擬した池があり、ここに村名を発したという。

また、一説に本村明戸屋敷の庄屋繁太夫という者伊勢参宮の帰途奈良を訪ね猿沢の池を見る。その池が当萩生の庄にある池に似ていることから仙台候に上申し許可を得、東磐井郡東山猿沢の池村と名づけられたという。その後池の字を取り猿沢村と改まった。猿沢の池は、現在字金取西沢小野寺氏の近くにある池とされている。

2 本校の沿革

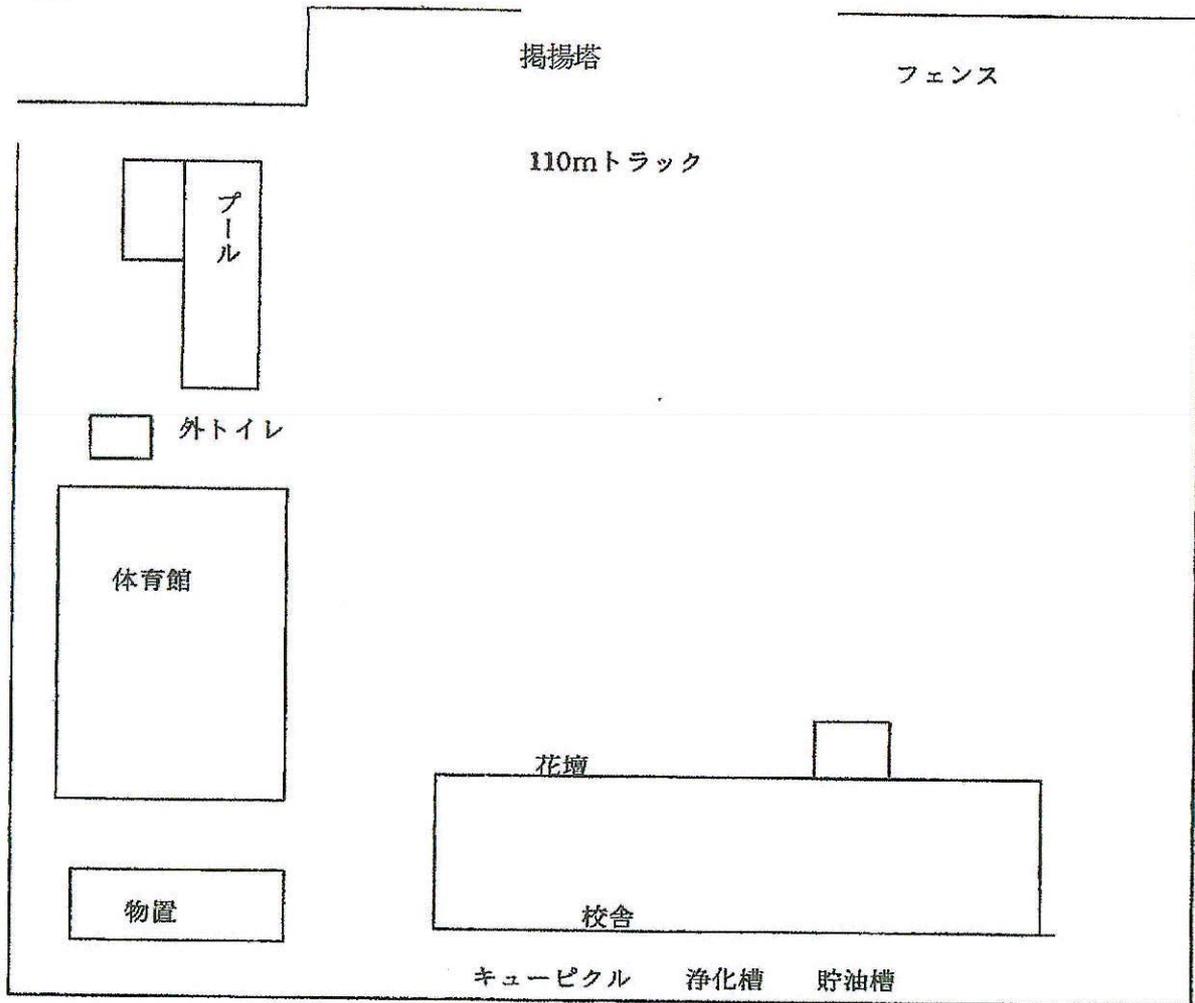
明治 6年3月31日	字上の洞金氏所有の一屋を借用し、字町方に公立猿沢小学校創立。 下猿沢、新渡戸、峠の3分校設置。
明治 7年	字町方中津山氏所有の一屋を借用。
明治16年10月	下猿沢、新渡戸両分校を本校に合併。
明治23年	猿沢村立猿沢尋常小学校と改称。
明治25年7月17日	字上ノ洞に猿沢村立猿沢尋常小学校を字大町裏に同校峠分教場を設置。
明治34年3月28日	校舎新築、上ノ洞に移転。
明治35年8月	農業補習学校を小学校内に併置。(修業年限3年)
明治38年4月1日	高等科が併置し、猿沢村立猿沢尋常高等小学校と改称。 農業補習学校(修業年限2年)11月～翌年3月の期間。
明治40年3月	尋常科の修業年限4年から6年になり校舎狭隘となる。
大正2年7月	校舎増築、落成式挙行。
大正15年7月1日	猿沢村立猿沢青年訓練所創設、小学校内に併置。(修業年限4年)
昭和9年9月20日	同地内に校舎改築移転。
昭和10年7月1日	猿沢村立青年学校創設(青年訓練所・農業補習学校廃止)
昭和16年4月1日	猿沢村立猿沢国民学校と改称。
昭和22年4月1日	猿沢村立猿沢小学校と改称、同校舎内に新制猿沢村立猿沢中学校を創設。 猿沢村立青年学校閉校。
昭和23年4月1日	峠分教場4学年までとする。校舎増築。5・6年は本校へ。
昭和25年4月	県立摺沢高等学校定時制猿沢分校を小学校内に併置。裁縫室移転工事。

昭和 26 年 11 月	教員住宅新築。字上ノ洞 12 番地。(27 年 11 月まで)
昭和 27 年 11 月	講堂解体、校舎西側に移転改築。高等学校分校校舎として利用。 小中学校共同の講堂新築。
昭和 30 年 1 月 1 日	校歌制定。ピアノ指弾式挙行。
昭和 30 年 4 月 1 日	町村合併により、大東町立猿沢小学校と改称。
昭和 31 年 3 月	井戸電気揚水施設を設置。
昭和 34 年 11 月 11 日	峠分校校舎新築移転。字大町裏 101 番地。
昭和 43 年 4 月	小学校隣接地に大東町立猿沢中学校を新築移転。
昭和 43 年 4 月	旧猿沢中学校校舎(北側校舎 1・2 階 4 教室)小学校で管理・使用。
11 月 1 日	猿沢学校給食共同調理所設置。学校完全給食開始。
昭和 45 年 9 月 3 日	第 25 回岩手県国体記念庭園・観察池造成。
昭和 46 年 3 月 30 日	猿沢小学校峠分校を廃止し、本校に統合。
昭和 47 年	郡下小学校ソフトボール大会優勝。
昭和 49 年 11 月 1 日	宿直廃止。
昭和 50 年 3 月 31 日	県立大東高等学校猿沢分校閉校。
昭和 50 年 4 月 1 日	特殊学級を設置。
昭和 51 年 3 月 31 日	猿沢学校給食共同調理所を閉鎖し摺沢学校給食共同調理所に統合。
昭和 53 年 8 月 5 日	体育用具室設置(講堂南側)
昭和 58 年	運動会に伊勢神楽を取り入れる。
昭和 61 年 2 月 21 日	校舎新築移転(鉄骨 3 階建)
昭和 61 年 4 月 19 日	新校舎落成記念式挙行。新校舎落成事業(バックネット・掲揚塔・下段・築山・二宮 尊徳像設置)
昭和 62 年 11 月 1 日	新校旗樹立式挙行。
昭和 62 年 12 月 26 日	物置設置。
平成 2 年 3 月 31 日	特殊学級閉級。
平成 6 年 3 月 31 日	屋内運動場完成。記念事業(演台・スポットライト 2 基、パイプ椅子 50 脚)
5 月 7 日	校歌碑建立。
6 月 4 日	屋内運動場落成式挙行。
8 月 5 日	第 8 回全日本小学生女子ソフトボール大会出場 2 回戦進出(滋賀県守山市)
平成 7 年 11 月 6 日	プール完成。
平成 8 年 4 月 1 日	岩手県教育委員会指定「環境教育推進校」
平成 8 年 4 月 30 日	岩手県教育委員会指定「学校スポーツ活動推進校」(~10 年)
6 月 15 日	プール落成式挙行。
平成 9 年 8 月 9 日	第 11 回全日本小学生男子ソフトボール大会出場。
平成 10 年 4 月 13 日	第 40 回創意工夫育成功労学校、科学技術長官賞受賞。
平成 10 年 8 月 8 日	第 12 回全日本小学生男子ソフトボール大会出場。
平成 11 年 6 月	校庭フェンス取り付け工事。
平成 11 年 6 月 29 日	郡野球大会優勝(決勝戦は千厩小)
平成 11 年 8 月 7 日	第 13 回全日本小学生男子ソフトボール大会出場。
平成 12 年 8 月 1 日	猿沢小学校 P T A 岩手県 P 連団体表彰受賞。
平成 13 年 2 月 28 日	運動着デザイン刷新。
平成 13 年 9 月	インターネット開設
平成 14 年 9 月 24 日	西側南面屋根雨樋設置工事
平成 15 年 2 月	西側軒下舗装工事
平成 15 年 4 月	特殊学級開設
平成 15 年 12 月	夜間照明灯の設置(教育委員会)
平成 15 年 12 月	プレハブの改修。
平成 16 年 2 月	夜間照明灯の設置(スポ少設置後委員会へ寄贈)
平成 16 年 3 月	水道漏水工事(校長室・職員室)

	プール日よけフェンス改修、遊具点検と危険遊具の撤去
平成 16 年 4 月	学校を中心とした食育推進事業(文部科学省委嘱)
平成 16 年 12 月	防犯ブザーの寄贈(地区交通安全協)
平成 17 年 4 月	学校を中心とした食育推進事業(文部科学省委嘱 2 年目)
平成 17 年 8 月	猿沢地区の下水道工事(猿沢小学校)
平成 17 年 9 月 20 日	市町村合併(新生一関市の誕生) 一関市立猿沢小学校と改称
平成 18 年 3 月	特殊学級閉鎖
平成 18 年 6 月	プール市水道工事。
平成 18 年 9 月	猿沢小学校 P T A 東北 P T A 連合会より団体表彰受賞
平成 19 年 8 月	第 2 1 回全日本小学生女子ソフトボール大会出場(富山市)
平成 20 年 12 月	ホール 2 階落下防止手摺り嵩上げ工事
平成 21 年 3 月	6 教室床塗装工事
平成 21 年 11 月 10 日	全国学校体育研究会 研究優良校受賞
平成 22 年 4 月	一関市教育委員会より「体育科」研究校に指定(～23 年度)
平成 23 年 2 月	洋式トイレ設置改修工事
平成 23 年 11 月 1 日	一関市教育委員会研究校指定 学校公開研究会「体育科」
平成 24 年 3 月 7 日	県南教育事務所長表彰受賞(体力・運動能力向上をめざした取組)
平成 24 年 12 月 3 日	体育館ステージ文字幕交換
平成 25 年 1 月 17 日	家庭科に湯沸かし器設置
平成 25 年 3 月	コンピューター室パソコンの機種更新
平成 25 年 4 月 1 日	特別支援学級・知的(ひまわり学級)開設
平成 26 年 7 月 24 日	蓬萊会様より松の木剪定奉仕
平成 27 年 2 月	県南教育事務所管内チャレンジロープ「長縄 3 分間 8 の字跳び」3 年連続第 1 位
平成 27 年 3 月	教室配置用ノートパソコンの機種更新
平成 27 年 4 月	機械警備導入
平成 29 年 3 月	校舎雪止め設置・体育館雨どい改修
平成 30 年 4 月	特別支援学級・情緒(たんぼぼ学級)開設
令和元年 4 月	児童用玄関の照明を交換
令和元年 10 月	教室のエアコン設置工事完了、キュービクル交換
令和元年 10 月 30 日	一関市教育委員会研究校指定 学校公開研究会「算数科」
令和 2 年 2 月	教育用パソコン(教室用)機種更新、電子黒板 2 台新設
令和 2 年 5 月	掲揚塔ロープ交換
令和 2 年 9 月	児童流し場、職員用トイレ蛇口の自動水栓化
令和 2 年 10 月	防火ポンプ改修
令和 3 年 5 月	児童トイレ手洗い場、体育館手洗い場の自動水栓化
令和 3 年 7 月	児童トイレ・職員トイレ洋式改修工事
令和 3 年 7 月	児童用タブレット一人一台導入・教師用タブレット導入
令和 3 年 10 月	校務用パソコン機種更新
令和 4 年 1 月	プール漏水修繕工事
令和 4 年 3 月	雲梯・鉄棒新設
令和 6 年 1 月	電子黒板各学級に新設
令和 6 年 4 月	特別支援学級・知的(ひまわり学級)開設 複式学級(第 2・3 学年)
令和 6 年 10 月 3 日	一関市教育委員会による学校総合訪問実施
令和 6 年 12 月	「あいさつ通り」から「スマイル通り」へ引継ぎ(卒業記念プロジェクト)
令和 7 年 4 月	特別支援学級・情緒(たんぼぼ学級)開設 複式学級(第 2・3 学年、第 4・5 学年)
令和 8 年 3 月	特別支援学級・知的(ひまわり学級)廃止

3 施設の概要

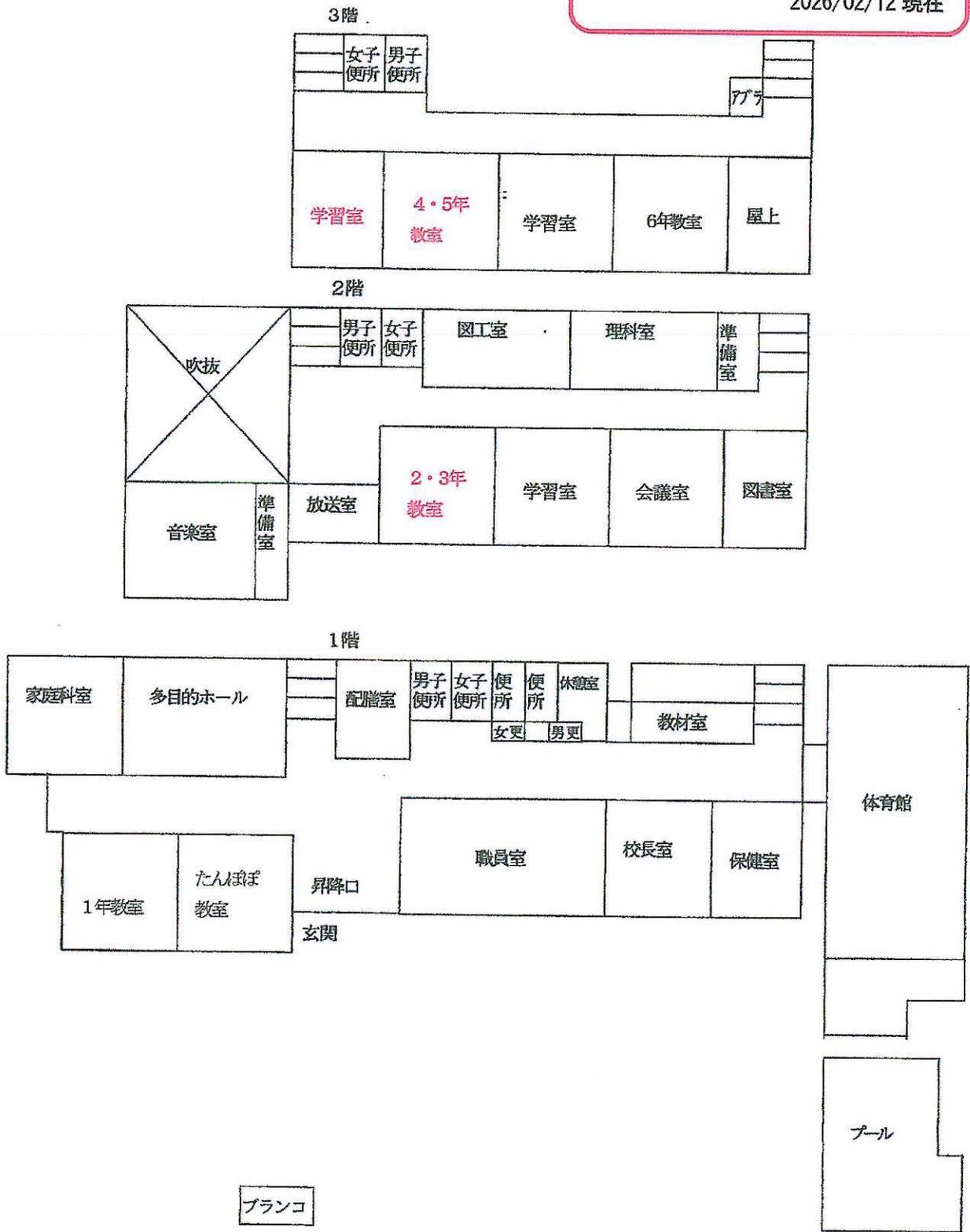
(1) 施設



校地面積	11,198 ^m ²	体育館面積	720.3 ^m ²
校舎敷地面積	4,884 ^m ²	プール面積	651.4 ^m ²

(2) 校舎配置図

特別支援学級（ひまわり学級）廃止
複式学級は下の学年で組合せ設定
2026/02/12 現在



合言葉「気づき 考え 行動する」

学校教育目標	かしこく【知】進んで学ぶ子 やさしく【徳】思いやりのある子 たくましく【体】心も体も健康な子
学校概要	学級数 5 通常 4 (複式学級2含む) 特支 1 児童数 42名 教職員数 名 PTA会員数 31名 主な関係校 大東地域 (大原小・大東小・興田小・大東中) 学校運営支援協議会 (令和6年度～) 委員9名

教育活動全体で育成を目指す資質・能力	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性など
各教科の基礎となり活用できる知識・技能 自分の考えや思いをわかりやすく伝える力 仲間と協力しともに学び合える力	各教科で習得する 基礎的・基本的な 知識や技能 関係づける力	筋道立てて考える力 考察する力 わかりやすく伝える力	主体性 想像力 自立心

経営の基本方針	日常のきめ細やかな指導・支援をとoshi、確かな学力と豊かな人間性を身に付けるとともに、家庭や地域と連携・協働し、郷土を愛し、その発展を支える人材の育成を目指し教育活動を展開する。
---------	--

重点事項	具体的な取組
① 感動のある教育実践 担当 教務部	① 資質・能力の育成を目指して全ての教職員で創り上げるカリキュラム・マネジメントを推進する。 ② 教育課程全体の中でSDGs・ESDの視点を意識した教育活動を展開する。 ③ 仲間との好ましい人間関係を築く中で、自分を知り長所を伸ばそうとする意識を育むとともに、体験活動を通して自己の生き方について考えを深めるキャリア教育を推進する。
復興教育 担当 復興	① 地域の教育資源を積極的に活用し、郷土への誇りや愛着を育てる教育活動を推進する。 ② 震災の教訓を継承する取組の充実を図り、防災教育を推進する。 ③ 自然災害のみならず、様々な困難な事象への対応に関連づけたり転移させたりして、その課題解決に向けた工夫をする。
② 確かな学力を育む 担当 研究部	① 「確かな学力育成プラン」に基づいた学力向上に取り組み、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得と、学びの個別最適化をねらいとして、ICTを効果的に活用する。 ② 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組みとともに、個々のつまづきに着目したきめ細かな指導を工夫し、わかる授業実践を推進する。 ③ 家庭学習・読書活動への意欲向上と習慣化に向けた指導を工夫する。
③ 豊かな心を育む 担当 指導部 教務部	① 子どもが主語の支える生徒指導「自己決定の場の提供(自分づくり)」「自己存在感の感受(居場所づくり)」「共感的人間関係の育成(絆づくり)」「安心安全な風土の醸成」の「生徒指導の実践上の4つの視点」を生かした授業づくりを行う。 ② 道徳教育の充実を図るとともに、さわやかなあいさつや返事、受け答えができるように、日々の活動において道徳的実践力の向上を図る。 ③ 体験活動や音楽活動の充実を図る。
④ 健やかな体を育む 担当 指導部	① 運動・食・生活の三つの習慣の改善に向けた「60プラスプロジェクト」を推進する。 ② 運動環境を整備し、運動の日常化と体育科の授業を通して、目標をもって運動する児童の育成、体力向上を図る。 ③ 健康・安全意識を高め、自己管理能力の育成を図る。
⑤ 共に学び、共に育つ 特別支援教育の推進 担当 特支 Co	① 個の育ちとともに集団の中におけるその子の育ちを注視し、指導・支援方法を工夫する。 ② 保護者との情報共有及び合意形成を図るために、積極的に教育相談を実施するとともに、医療、福祉、心理等の専門家を活用した指導・支援の充実を図る。 ③ 特別な支援を必要とする児童が安心して学校生活を過ごすことができるよう、交流学級との連携強化、授業のユニバーサルデザイン化を図る。(「シンプル・クリア・ビジュアル・シェア」)
⑥ いじめ問題への確かな対応と不登校対策等の推進 担当 指導部	① 「学校いじめ防止基本方針」に基づいた取組を徹底するとともに、Q-U・「心とからだの健康観察」の実施、スクールカウンセラーと連携し、いじめの未然防止や不登校対策を推進する。 ② 個々の教育的ニーズに応える指導・支援、児童に寄り添った教育相談の充実を図る。 ③ 情報モラル教育を推進し、児童や保護者への啓発につながる実践の充実を図る。
⑦ 学びの基盤づくり 担当 総務	① 学校運営支援協議会及び地域学校協働活動、PTA、地域住民、関係機関・団体等との連携・協働による取組を工夫し、地域とともにある学校づくりを推進する。 ② 「学校経営グランドデザイン」及び「まなびフェスト」「そだてフェスト」に基づく家庭・地域と一体になった教育活動を展開する。 ③ PDCAサイクルによる学校マネジメントの実践・評価に取り組むとともに、主体的に働き方改革の取組を推進し、質の高い教育を持続的に提供する。
⑧ 小規模・複式教育 担当 総務	① 少人数・複式学級の特質を生かした指導計画の改善・充実を図るとともに、OJL(On the Job Learning)による学び続ける組織を目指す取組を推進する。 ② ICTの活用による間接指導時における自立的・協働的な学習の充実を図る。 ③ 合同学習、交流学习、遠隔授業等、教育計画の立案と実践を図る。



【学校教育目標】

かしこく【知】 進んで学ぶ子 やさしく【徳】 思いやりのある子 たくましく【体】 心も体も健康な子

【経営の基本方針】 合言葉「気づき 考え 行動する」

日常のきめ細やかな指導・支援をとおし、確かな学力と豊かな人間性を身に付けさせるとともに、家庭や地域と連携・協働し、郷土を愛し、その発展を支える人材の育成を目指し教育活動を推進する。

めざす学校像

- 子どもが元気に登校し、笑顔で下校する学校
- 明るい笑顔があふれる活気に満ちた学校
- 安全が保障され子どもが安心できる学校
- 子どもの確かな成長を保障する学校
- 保護者・地域との協働を大切に、保護者・地域から信頼される学校

めざす子ども像

- 明確な夢や目標をもち、それに向かって学び続ける子
- 相手の話をよく聞き、自分の思いや考えを様々な方法で相手に伝えることができる子
- 場に応じた明るいあいさつと受け答えができる子
- 互いを尊重し認め合いながら、自分達で決めて活動できる子
- 自分でたてた目標に向かって、粘り強く、最後まであきらめないで取り組む子

めざす教職員像

- 温かいまなざしで子どもを見つめ、内なる情熱がみなぎる教職員
- 子ども理解に努め、一人ひとりの子どもに向き合いよりそう教職員
- 教育に対する使命感をもち、自己研鑽に努める教職員
- 組織の一員として、主体的・協働的に学校経営に参画する教職員
- 業務改善の意識をもち、自らの働き方をマネジメントできる教職員

【経営の重点】

【育成を目指す資質・能力】

知識・技能 思考力・判断力・表現力
主体性 想像力 自立心



かしこく【知】

進んで学ぶ子

- わかる授業づくり
 - ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善
 - ・授業のユニバーサルデザイン化「シンプル・クリア・ビジュアル・シェア」
 - ・目標に向かい粘り強く学び続ける子どもの育成
- 確かな学力の育成
 - ・基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得
 - ・学びの個別最適化をねらいとして、ICTの効果的な活用
- 学校と家庭、地域をつなぐ「学び」の充実
 - ・家庭学習の習慣化
 - ・読書習慣の確立
 - ・「伊勢神楽」の継承
 - ・郷土理解学習
 - ・世代間交流

やさしく【徳】

思いやりのある子

- 心の教育の充実
 - ・さわやかなあいさつや返事、受け答えの実践
 - ・道徳教育の充実
 - ・体験活動や音楽活動の充実
- 組織的な生徒指導の充実
 - ・いじめの未然防止、不登校対策
 - ・子どもが主語の支える生徒指導
 - ① 自己存在感の感受
 - ② 共感的な人間関係の育成
 - ③ 自己決定の場の提供
 - ④ 安全・安心な風土の醸成
 「生徒指導の実践上の4つの視点」
- 復興教育の充実
 - ・地域の自然や文化、人々との関わり
 - ・地域の教育資源を活用した体験的な学習の充実

たくましく【体】

心も体も健康な子

- 体力の向上
 - ・目標をもって運動する子どもの育成
 - ・体育授業の充実、運動量の確保
 - ・業間運動の実施、60プラスプロジェクトの実施
- 健康教育の充実
 - ・健康・安全意識を高め、自己管理能力の育成
 - ・家庭と連携した「早寝、早起き、朝ごはん」の推進
 - ・メディア利用は1日1時間以内、「居間8ルール」の約束
 - 「夜8時になったら スマートフォン・ゲーム機等を居間(リビング)に置きましょう」
 - ・Q-Uの実施、教育相談の充実
- 安全教育・防災教育の充実
 - ・自他の命を守る意識を育む指導
 - ・生活、交通、災害安全の指導
 - ・危険を予測した行動力の育成

【地域とともにある学校づくり・学校を核とした地域づくり】



よき校風の創造・発展

- 学校経営グランドデザイン
- まなびフェスト
- そだてフェスト
- 学校評価アンケート
- ホームページ、ブログ
- メール、各種通信



めざす家庭・地域像

子どもにとって家庭は「心の安全基地」

- 親子の対話を大事に「子ども理解」に努める家庭
- 大人の背中子どもに手本を見せる家庭
- 基本的生活習慣や学習習慣を整える家庭



みんなでつくる「癒しと緑の郷」【参考文献：第3期版まちづくり計画】

- 人と人がつながり合い、社会総がかりによる子どもの健全育成
- 地域住民、関係機関・団体等、組織が連携・協働を繰り返しながら学びの好循環を生み出す地域
 - ・学校運営支援協議会、大東地域学校支援地域本部事業の一体的推進
 - ・大東中学校区における小中連携
 - ・猿沢保育園と小学校の学びをつなぐ連携



猿沢小まなびフエスト・そだてフエスト 案

— 関市立猿沢小学校
学校教育目標

【かしく】・進んで学ぶ子

学びに向かう力を持ち、粘り強く学習する。
学び方を身に付け、家庭学習や読書に取り組む。
相手の話をよく聞き、進んで自分の考えを話す。

【やさしく】・思いやりのある子

さわやかなあいさつをする。
ありのままを受け入れ、互いの個性を尊重し合う。
自分で考え協力しながら活動する。

【たくましく】・心も体も健康な子

目標を持ち、あきらめないで努力し続ける。
外で元気に遊び、体を鍛える。
自身の健康・安全を意識し、生活習慣を確立する。

まなびフエスト

【学校の取組】

- ◎ 授業での習熟時間の確保と、家庭学習の指導の充実により、学力の向上をめざします
- ことばの学習、各教科単元テストの取組を通して、集中力と粘り強さを高めます
- 授業で学び合う場を設定し、相手の考えを聞き、自分の考えを深め、自分の考えを相手に分かるように伝える活動の充実を図ります

進んで学ぶ子

- ◎ 年間を通じた「児童会のあいさつ運動」やふわふわ言葉の取組を通して、心を伝えるさわやかなあいさつや返事、受け答えができる子を育てます
- ありのままを受け入れ、互いの個性を尊重し合っで活動する意識を高める取組を展開します
- 児童が主体的に絆を紡いでいける居心地の良い学級づくりを心がけます

思いやりのある子

- ◎ 「60プラスプロジェクト」の取組を通して、「運動習慣」「食習慣」「生活習慣」を意識し、家庭と連携したよりよい生活習慣の確立を図ります
- 体育的行事の取組や外遊びの奨励を通して、目標をもってあきらめずに運動に取り組む習慣づくりを推進します
- 避難訓練や他の防災教育を通して、学校事故0、交通事故0を継続します

心も体も健康な子

めざす子どもの姿

- ◎ 時間を決めて集中して家庭学習に取り組む
家庭学習と家庭読書の時間 **90%**
- 粘り強く課題に取り組む、できるようになる
各教科単元テスト **低90% 高80%**
- 相手の話を聞き、進んで考えを表現する
自分の考えを表現する **授業がわかる 3.5以上**

- ◎ さわやかなあいさつ、返事、受け答えをする
【目を合わせる 大きな声で 先に】 **3.5以上**
- 友達の良いところを認め合って活動する
自分や友達にはよいところがある **3.5以上**
- 自分で考え、協力し合って活動する
学校が楽しい なかよく助け合う **3.5以上**

- ◎ 規則正しい生活習慣の確立
早ね・早起き・朝ごはん **3.5以上**
- ◎ メディアコントロール*ができるようになる
「週間8ルール」や「おうちルール」を守る **3.5以上**
- めあてをもって進んで運動する
マラソン大会等の取組や外遊び **3.5以上**

そだてフエスト

【家庭にお願いしたいこと】

- ◎ 時間を決め、家庭学習と読書に集中して取り組めます
- 家庭学習 学年×10分以上
- 家庭読書 1日10分以上
読書目標冊数 1・2年：100冊
3・4年：70冊
5・6年：50冊

- ◎ さわやかなあいさつを家庭や地域でかわします
- 家庭や地域でのあいさつ
「おはようございます」 「こんにちは」
「いってらっしゃい」 「いってきます」
「さようなら」 「ごめんないさい」
「ありがとうございます」 など

◎よりよい生活習慣の確立をめざします

○おうちルールづくり

例 ○朝の起床時刻が午後8時～9時以降である ○少なくとも毎日1時間以上読書する
○1週間読書冊数を定める
○読書のジャンルやテーマを決める ○メディア利用は1日1時間以内とする

◎ は重点項目

※ メディアコントロールとは、メディアを使用する時間やルールを親子で話し合い決めて、調整・抑制していくこと。